

クラス番号	610	担当教員名	北村 育子
テーマ	高齢者の日々の暮らしを支える専門職の役割		
著書・論文 研究課題等	認知症の人々を含め、高齢者支援について研究しています。認知症高齢者の支援には継続して携わっており、特養でのグループワークを続けています。その他、さまざまな生きづらさを抱える人たちや自殺を考える人たちに対する電話相談にも長く携わっています。また、高齢者の在宅介護サービス事業者と協力して、サービスの質的向上に取り組んでいます。		

## ゼミナール概要

キーワード：高齢者、暮らし、専門職、協働、独居、認知症、など

目的：介護保険制度ができて15年あまり、制度創設当時とは環境が大きく変わってきている。団塊の世代が高齢期を迎え、少子化が進行するなか、これまでのようなゼイタクなサービス利用はできなくなるだろう。このような環境の変化をネガティブにのみ捉えては、支援を必要とする人々の暮らしの質は低下するばかりである。このゼミでは、私たちの「暮らし」に焦点をあて、暮らしを丁寧に見直すなかで、限られた資源を有効に活用した支援のあり方について学ぶことを目的とする。

内容：このゼミではまず、私たちの「暮らし」について学ぶ。私たちはふだん、起きて、身支度をして、朝ごはんを食べて、学校や仕事に通って、入浴し、夕飯を食べ、テレビを見たり家族と話したりして一日を終える。これらの一つひとつに、あらためて焦点をあてて考察する。次に、一人ひとりの暮らし方に違いがあることを再確認し、暮らし方の違いをどのように捉え、尊重することができるか、その方法について学ぶ。今後は、認知症であっても在宅でも暮らしが可能になるようなシステムが必要とされることから、認知症の人の特徴についても取り上げる。その上で、高齢者の暮らしを支える専門職の役割について知り、それら専門職の協働について学ぶ。

ゼミのすすめかた：①衣食住を整えることについて学ぶ。ここでのキーワードは、個性と文化である。家政学や人類学にも目を向ける。②一人暮らしや認知症を抱えて暮らすことに伴うニーズについて学ぶ。③高齢者の暮らしを支える専門職には、ホームヘルパー、デイサービスの職員、ショートステイ施設の職員、これらの事業所の社会福祉士、地域包括支援センターの社会福祉士や保健師、ケアマネジャー、訪問看護師、かかりつけ医、などの他、入院した場合には入院先の医師や看護師、退院支援を行う社会福祉士、そして訪問サービスに携わる理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士などがいる。これらの専門職の役割と社会福祉士の仕事との違いや重なりについて学ぶ。④卒業に向けて、各自の関心を絞り込んでいく。⑤卒論を計画し、執筆に取り組む。

## 担当教員からのメッセージ

ゼミでは、書籍や資料から学ぶことに加え、参加者が自分や家族の暮らしについて積極的に紹介し合い、そこから学ぶことを大切にしたいと思います。担当者の地域での取り組みについても紹介し、生きること、暮らすことについて、みなさんの多様な意見を求めます。暮らしは人によっても、家族によっても、地域や地方によっても、何人で暮らすかによっても異なります。自らの暮らしにあらためて焦点をあてることで、高齢者の良き支援者になることを目指します。